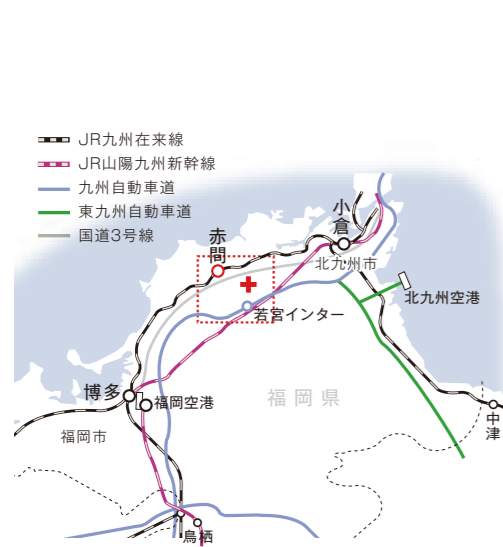


ACCESS

宗像市の郊外にある自然豊かなキャンパスは、
生命を尊び、慈しむことの大切さを学ぶに
ふさわしい恵まれた環境にあります。



車をご利用の場合

若宮インター(九州自動車道)より車で約20分
福岡空港より車で約50分

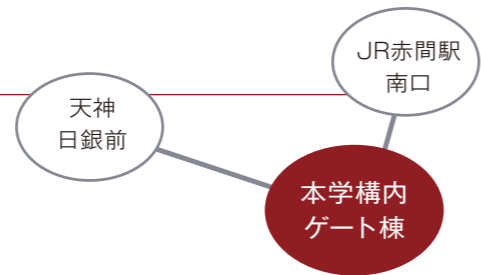


公共交通機関の場合/JR&西鉄バス



福岡・天神から直行バスが乗り入れ。

天神日銀前から西鉄バス「日赤看護大学」行きに乗れば約70分で着きます。1日11便が授業の開始・終了に合わせて運行されています。またJR赤間駅南口から、西鉄バスによって約15分で結ばれています。



日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地
TEL: 0940-35-7001 / FAX: 0940-35-7021
<http://www.jrckicn.ac.jp/>



日本赤十字九州国際看護大学大学院
看護学研究科 案内 2018

Japanese Red Cross
Kyushu International College of Nursing
Graduate School of Nursing

大学院は、 あなたの看護キャリアの発展を支援します！

日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科では、平成19年4月の開設以来、赤十字の人道の理念を基調としたカリキュラムにより、超高齢社会、グローバル社会における多様な人々の生活や価値観、健康ニーズに対応できる学問的基盤を提供してきました。そして、大学院生たちは科学的・学際的に研究に取り組み、そのエビデンスをもって看護実践を導く看護学の体系を発展させることに貢献してきました。

昨年からは、独創的な看護学研究を遂行できる研究者の育成を目指して、日本赤十字学園にある本学を含む5つの赤十字看護大学と連携した共同看護学専攻博士課程を開設しました。修士課程修了者にはさらに看護学を深める道が拡がりました。今年も、修士課程の中に「クリティカルケア看護」、「在宅看護」の専門看護師（CNS）を育成するコースも開始いたしました。高度医療の象徴ともいえる重症・集中ケアや救急看護は、医療提供体制の要です。一方、超高齢社会の医療介護体制として地域包括ケアシステムの構築が急がれています。そこでは在宅医療を支える訪問看護師の役割は格段に大きくなっています。本学の大学院は、このように社会や人々の健康ニーズの変化に応じて、教育内容を刷新し、発展しています。

本学大学院の修了者は現在56人になりましたが、その多くは臨床や地域の看護リーダーとして社会に貢献しています。大学院での学習といえば、研究を修士論文としてまとめ、修士の学位を得ることがまず頭に浮かぶと思いますが、それだけではありません。大学院で学ぶことにより、論理的な思考力を高め、問題に対する研究的アプローチを可能にし、生じている事象を説明する言葉を獲得することでしょう。これらの能力を身につけていることは、様々な場で修了生がリーダーとなっている理由でもあると思います。さらに、大学院での研究を進めていく過程では、それまでの看護実践の場とは異なる人間関係を築く必要があり、人的ネットワークも拡大します。それはやがて、自身のキャリアにおいて全く新しい仕事の機会を得ることもつながります。

大学院で学ぶ意義は広く深く、皆さん個々人の将来を大きく広げてくれるものです。ご自身のキャリアを発展させたいとお考えの方、ぜひ本学大学院でともに学び、研鑽を積まれるよう心から願っております。



日本赤十字九州国際看護大学
学長 田村 やよひ
Yayoi Tamura



| CONTENTS |

P01 学長メッセージ	P12 修士論文タイトル・研究論文発表会
P03 沿革・大学院ミッション	P13 博士課程/共同看護学専攻
P05 研究科長メッセージ	P15 サポート体制
P06 修士課程/特色・履修の流れ	P16 教育課程等の概要
P07 コース紹介/保健コース	P17 大学院で学ぶこと
P07 コース紹介/看護コース	P18 科目等履修生・お話し受講・入試相談会
P09 コース紹介/CNSコース	P19 施設紹介
P10 コース紹介/助産教育コース	P21 入試情報
P11 授業科目一覧	



JAPANESE RED CROSS KYUSHU
INTERNATIONAL COLLEGE OF NURSING
GRADUATE SCHOOL OF NURSING

HISTORY

日本赤十字九州国際看護大学は、学校法人日本赤十字学園の第4番目の看護学部看護学科として九州地区に開設されました。2007年4月に大学院を開設、2010年4月には大学院での助産教育を開始しました。更に、2016年4月には5つの赤十字看護大学との共同で、共同看護学専攻博士課程を開設しました。

沿革

- 2001年 4月 日本赤十字九州国際看護大学 開学
- 2006年 6月 大学院設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2006年11月 文部科学大臣から大学院設置の認可を受ける
- 2007年 4月 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科 開設
- 2009年 3月 財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
※ 認定期間は2016年3月31日まで
- 2009年 6月 大学院看護学研究科看護学専攻「助産師学校」指定申請書を文部科学大臣に提出、受理される
- 2009年10月 文部科学大臣から大学院看護学研究科看護学専攻（助産コース）開設の認可を受ける
- 2010年 4月 大学院看護学研究科看護学専攻（助産コース）開設
- 2015年 3月 大学院共同看護学専攻博士課程設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2015年 8月 文部科学大臣から大学院共同看護学専攻博士課程設置の認可を受ける
- 2016年 3月 公益財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
※ 認定期間は2023年3月31日まで
- 2016年 4月 大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程 開設
- 2017年 4月 大学院看護学研究科看護学専攻（CNSコース）開設

MISSION

《教育理念》

人間の尊厳を基調として、多様な健康ニーズに対応できる高度な専門性を追究することを教育理念としています。

《大学院の目的》

本学修士課程は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的としています。

《教育目標》

赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標としています。

《アドミッションポリシー》 本学修士課程はこのような人を求めています。

- ・ 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観を有する人
- ・ 基礎学力と専攻領域の基礎的知識を身につけている人
- ・ 看護・保健専門職として研究する基礎的能力を有する人
- ・ 主体的に国内外の健康問題について学び、多職種と協働して社会に貢献する態度を有する人

《カリキュラムポリシー》

日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程は、その掲げる教育理念および教育目的・目標を達成するために研究・教育者をめざす「保健コース」と「看護コース」、高度実践看護師を目指す「CNSコース」、助産師国家試験受験資格取得を目指す「助産教育コース」を設置し、保健学・看護学の研究者、教育者、実践者の養成を目指しています。修士課程の教育目標を達成するために以下の方針に基づき教育課程を編成し、実施します。

【修士（保健学）】

1. 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた保健専門職として課題を探究するために、学習の基盤となる共通科目を置いています。
2. 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、各領域における専門性の発展・深化を目指すために専門科目を置いています。
3. 保健学の発展に貢献する研究に取り組むために、様々な研究方法を段階的・構造的に学べる研究科目を置き、科目間で連携を図りながら授業を運営します。
4. 保健専門職として研究の成果を社会に還元するために特別研究を課しています。
5. 研究者・教育者をめざす者、高度実践看護師を目指す者、助産師国家試験受験資格取得を目指す者という多様な目的を有する学修者が領域を横断して学問を探究できるよう合同で演習を実施します。
6. 専門領域を超え、リベラルアーツ、保健医学系の教員による総合的な研究指導体制をとることで大学院生の自律的・学際的な学びを支援します。

【修士（看護学）】

1. 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究するために、学習の基盤となる共通科目を置いています。
2. 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、各領域における専門性の発展・深化を目指すために専門科目を置いています。
3. 看護学の発展に貢献する研究に取り組むために、様々な研究方法を段階的・構造的に学べる研究科目を置き、科目間で連携を図りながら授業を運営します。
4. 看護専門職として研究の成果を社会に還元するために特別研究を課しています。
5. 研究者・教育者をめざす者、高度実践看護師を目指す者、助産師国家試験受験資格取得を目指す者という多様な目的を有する学修者が領域を横断して学問を探究できるよう合同で演習を実施します。
6. 看護の専門領域を超え、リベラルアーツ、保健医学系の教員による総合的な研究指導体制をとることで大学院生の自律的・学際的な学びを支援します。

「CNSコース」は【修士（看護学）】の1～6に加え、以下の教育課程を編成し、実施します。

7. 卓越した看護実践能力を育成するために、それぞれの専門看護師資格認定に必要な科目を置いています。
8. 専門看護分野のケアの質改善に向けた課題を探究するために、文献クリティック演習および課題研究を課しています。

「助産教育コース」は【修士（看護学）】の1～6に加え、以下の教育課程を編成し、実施します。

9. 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するための実践能力を育成するために、助産師国家試験受験資格取得に必要な科目を置いています。
10. 助産分野の実践現場における課題を探究するために、文献クリティック演習および課題研究を課しています。

修士課程 看護学専攻

研究科長メッセージ

新たな知の創造に向けて学問を究める

日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科は、平成19年4月の修士課程開設以来、保健学コースおよび看護学コースを有する数少ない大学院として、特色あるカリキュラムを提供してきました。そして今年度には「クリティカルケア看護」および「在宅看護」領域の専門看護師(CNS)教育を新たにスタートさせるとともに、カリキュラム全体を見直し、保健・看護・CNS・助産教育の4つのコースに7つの専門領域を配置したカリキュラムへと大きな改正を行いました。これにより、それぞれの専門性と将来像を見据えた選択が可能になったのではないかと考えております。

本学修士課程で学ぶ院生は、年代や専門領域、働いている場など実に多様です。この多様性の中から、新たな発想が生まれています。本学では、専門領域の知見を深める科目はもとより、領域横断型の科目を複数設定し、多様な観点からものごとを捉えることを重視しています。また、研究方法に関する科目を基本から応用へと段階的に編成していることも大きな特徴です。院生の皆さんは、自身の実践活動のなかで抱いた問いに対して、あらゆる角度から吟味し、答えを探究していくための学問的方法論を学び、自分の研究に活かすことができます。さらに、働きながら学ぶ社会人院生にとっては、時間割への配慮や長期履修制度が充実していることも学習の助けになるはずです。本学では、学習の主体である院生の皆さんが、何をどのように学びたいのかを教員に投げかけることによって、一人ひとりの学習ニーズと問いに応じたオーダーメイドの学習プログラムになるものと考えています。

平成28年4月に開設した共同看護学専攻博士課程は2年目を迎え、本学を含む5つの赤十字看護大学がそれぞれの強みを活かしたカリキュラムを協働して提供しています。各大学の院生と教員とが相互に知的刺激を与え合うことで、博士課程そのものが「知の共同体」として進化していることを実感しています。

大学院で学ぶ成果は、在籍中に院生の皆さんがどのように学ぶかにかかっています。時代は大きく動いています。既成概念にとらわれず、学友や教員との議論をおおいに楽しみ、新たな知の創造に果敢に挑み続けてほしいと願っています。本学は全力で院生の皆さんを支援します。



研究科長
本田 多美枝 教授

修士 | 学位取得のための4つのコース、7つの専攻領域

コース	保健コース	看護コース			CNSコース	助産教育コース	
学位	修士(保健学)	修士(看護学)					
領域	国際保健	生涯発達看護	広域看護	基盤看護	クリティカルケア看護	在宅看護	助産教育
	・災害/国際協力 ・ヘルスプロモーション	・成育看護 ・成人看護(慢性) ・老年看護	・クリティカルケア ・メンタルヘルスケア ・在宅ケア	・看護管理 ・看護教育 ・看護倫理			

研究科修士課程の特色

研究方法を強化した共通科目の特色

本学の共通科目の特色として、研究方法(研究方法総論)、研究方法A-I(量的研究方法の基礎)、研究方法B-I(質的研究方法の基礎)、研究方法A-II(量的研究方法)、研究方法B-II(質的研究方法)といった研究方法を学ぶ科目が多くあります。質的研究と量的研究に対するきめ細やかな指導を行い、院生の研究能力向上を支援します。

充実した研究環境

共同研究室には、院生一人ひとりが研究活動に専念できるように、専用のデスク、パソコンが準備されています。その他、SPSS搭載のノートパソコンも貸与しています。全館Wi-Fi対応で、いつでもどこでもインターネットや文献収集に必要な医療系データベースに接続できます。一部のデータベースは、学外からのアクセスも可能です。また、ラーニング・コモンズには、プロジェクター等の機材を配備し、研究発表の練習や他領域の院生とのディスカッションなど新たな協同学習の場も整えています。

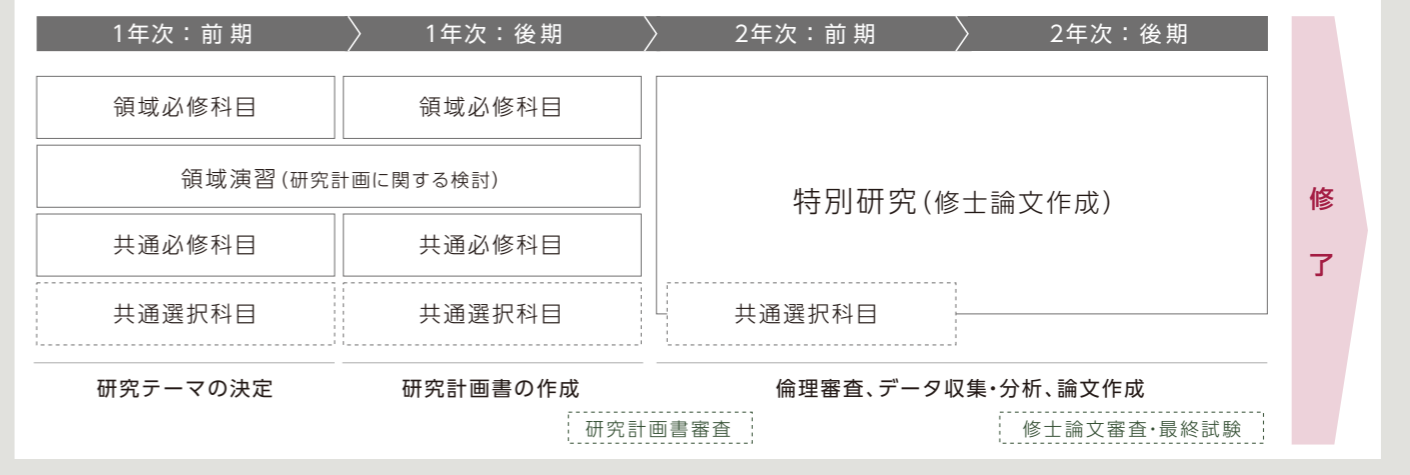
社会人への配慮の特徴

金曜日と土曜日に授業が集中しているため、1年間で大半の科目履修ができます。2年目は、修士論文を作成するための多くの時間をとることができます。なお、大学院入学前に、本学大学院で科目等履修生として修得した単位は、大学院入学後の修得単位として10単位まで認められます。このように、社会人が働きながら本学で修士号を取得しやすいようにきめ細やかな対応をしています。

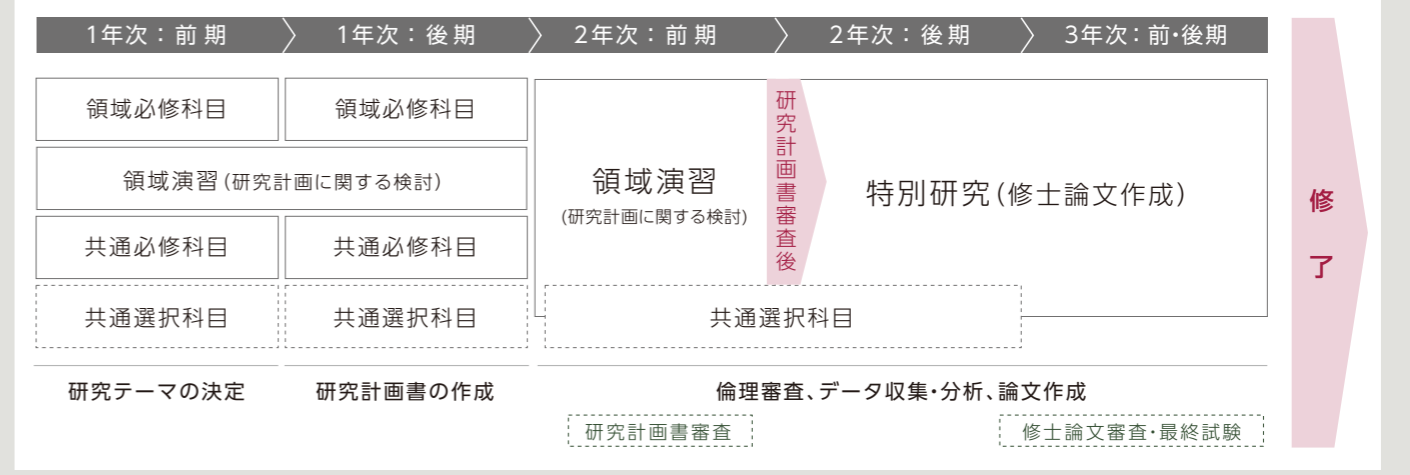
垣根を越えた指導体制

一つの領域は専門性豊かな複数の分野で構成されています。たとえば、成育看護、成人看護(慢性)、老年看護は独立した専門分野ですが、この3分野は生涯発達看護という領域に位置付けられています。一見、専門性が違う分野であっても、生涯発達という時間的経過でとらえなおすと対象の健康問題を包括的にとらえることができます。さらに、領域の垣根を越えた指導体制としては、研究方法(研究方法総論)を受講した院生は、領域の違いを越えて、論文をクリティークする方法を合同演習で学びあいます。

入学から修了までの履修の流れ ①標準課程



入学から修了までの履修の流れ ②長期履修課程



3年間で履修する課程です。職業を持っている人などは、ゆとりをもって着実に履修できます。1年次、もしくは2年次に研究計画書の審査を経て、3年次に修士論文の審査と最終試験に合格後、修士の学位が授与されます。長期履修制度は、入学時に申請が必要です。履修年限の短縮申請は、在学中1回のみ認められます。※長期履修制度を利用した場合においても、総納付金額は通常の2年コースと同様です。

保健コース 国際保健領域

健康は国際社会の共通の課題です。国内外での大規模な災害の多発、貧困、健康格差、高齢化の全世界的進行など、健康を脅かす要因は複雑・多様化しています。地域で暮らす人々が安全・安心かつ健康な生活を営むためには学問分野を統合した教育・研究が必要です。本領域では、災害・国際協力とヘルスプロモーションの分野が協働し、国際保健領域の課題を多角的・構造的に探究し、個人・集団の健康と生活支援の実践計画策定の指導を行います。もって、国内外を問わず個人・集団の健康と安全に貢献できる、高い専門性と実践力を備えた人材の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
災害・国際協力	災害、貧困、健康格差など問題は国内外を問わず頻発しており、人々の健康や生活に影響を及ぼしています。本分野では、このような問題を様々な観点から深く洞察し、看護の役割について探究します。	小川 里美 准教授
ヘルスプロモーション	高齢化の世界的な進行は、個人の健康増進を集団的にサポートするヘルスプロモーションを必要としています。コミュニティを地域社会、職場など広くとらえ、一人ひとりのライフスタイルを考慮した健康生活支援について探究します。	乗越 千枝 教授 守山 正樹 教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

小川 里美 准教授 <i>s-ogawa@jrckicn.ac.jp</i> ・紛争被災国における看護教育および看護政策に関する研究 ・人間の安全保障に関する研究 ・国際協力における人材育成に関する研究	乗越 千枝 教授 <i>c-norikoshi@jrckicn.ac.jp</i> ・継続看護・退院支援に関する研究 ・認知症の人および家族に関する研究 ・訪問看護技術に関する研究
--	---

看護コース 生涯発達看護領域

国際化を含む生活様式の多様化は人の一生に新たな課題を生じさせているため、そうした課題に取り組む人材の育成が必要です。本領域は、成育看護、成人看護（慢性）、老年看護の3つの分野で構成され、発達段階における特徴的な健康問題を専門的に探究するとともに、グローバルな保健分野の問題をも探究できる人材の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
成育看護	子どもの成長・発達段階を踏まえて、子どもと親、家族、地域との関係をネットワークという視点を通して学びます。小児医療を取り巻く環境の変化および多職種連携についても最新の知見について探究します。助産師国家資格を取得後にも、性と生殖に関する発達課題を学び、その健康・権利を守る援助と親役割獲得のための支援について探究します。	大重 育美 教授 永松 美雪 教授
成人看護（慢性）	現代の健康問題の多くは慢性疾患との関連が深く、医療の進歩や高齢化によって問題は複雑化しています。予防からエンド・オブ・ライフケアまでの長期的視点および国内外の最新の知見に基づき、慢性期にある人の健康問題の本質と解決策を探究します。	中村 光江 教授
老年看護	国内外の諸理論を通して老年看護の場で生じる現象への理解を深め、生活モデルを通して老年看護の可能性や本質を探究します。また、高齢者やその家族が健康的で質の高い生活を送るための看護援助について探究します。	姫野 稔子 教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

大重 育美 教授 <i>n-ooshige@jrckicn.ac.jp</i> ・子育て、孫育てに関する研究 ・子どもの事故防止に関する研究 ・看護師の疲労感に関する研究	永松 美雪 教授 <i>m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp</i> ・親子関係、育児支援に関する研究 ・男女間暴力・性暴力被害の予防教育と支援に関する研究 ・望まない妊娠・性感染症の予防教育と支援に関する研究	中村 光江 教授 <i>m-nakamura@jrckicn.ac.jp</i> ・慢性病とともに生きる人への看護に関する研究 ・主として非がん患者への終末期ケアおよび緩和ケアに関する研究(倫理的課題を含む) ・看護事例研究、看護の実践知に関する研究、現象学に基づく看護現象の記述方法を探究	姫野 稔子 教授 <i>t-himeno@jrckicn.ac.jp</i> ・高齢者ケアに関する研究(ケア介入プログラムの開発、介入効果の値・測定など) ・End-of-Life Care、ターミナルケア、終末期ケアに関する研究 ・看護用具・介護用具の効果の測定・評価
--	---	--	--

看護コース 広域看護領域

誰でもが遭遇しうる多様な健康の課題を、クリティカルケア、メンタルヘルスケアおよび在宅ケアという異なった切り口から探究し、今後の課題に対して、専門的かつグローバルに関与できる人材の育成をめざします。本領域は、クリティカルケア、メンタルヘルスケア、在宅ケアの3つの分野から構成されます。



分野	分野の特徴	担当教員
クリティカルケア	クリティカルな状況にある患者やその家族に対する看護について、国内外の知見の系統的な分析と、関連する諸理論や概念を用い、クリティカルケアの専門性について探究します。	山勢 善江 教授 濱元 淳子 准教授
メンタルヘルスケア	施設内外を問わず、健康問題を抱える対象者やケアを提供する看護師のメンタルヘルスに関する課題解決を探究します。グローバル化時代に対応するための新たな看護支援を探究します。	高橋 清美 教授 石飛 マリコ 准教授
在宅ケア	在宅ケアを取り巻く社会的背景や政策的な方針を踏まえた上で、在宅ケアにおける課題について探究します。また、活用できる概念や諸理論、研究動向から在宅看護の専門性について探究します。	小林 裕美 教授 西村 和美 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

山勢 善江 教授 <i>y-yamase@jrckicn.ac.jp</i> ・クリティカル領域における患者・家族・看護師を対象にした研究 ・クリティカルケア領域における看取り	高橋 清美 教授 <i>k-takahashi@jrckicn.ac.jp</i> ・精神障がい者の摂食嚥下機能支援に関する研究 ・地域におけるうつ病教育に関する研究 ・看護師のアサーティブコミュニケーション教育に関する研究	小林 裕美 教授 <i>h-kobayashi@jrckicn.ac.jp</i> ・在宅で終末期を迎える療養者と家族に関する研究 ・看護現象を質的統合法(KJ法)を用いて明らかにする研究 ・訪問看護師の資質向上に関する研究
--	---	---

看護コース 基盤看護領域

技術的に著しく進歩した医療の中でも、<人を見る>という看護の本質は不変です。しかし、グローバル化した世界では、ものや情報は激しく交流し、人のライフスタイルも激変します。本領域では、このような社会の変化を視野に入れて、時代に応じた質の高い看護を個人・組織・専門職集団レベルで提供していくために必須となる組織マネジメントや看護政策、人材育成の方法論、看護倫理について、多角的、専門的に探究します。本領域は、看護管理、看護教育、看護倫理の3つの分野から構成され、看護実践の基盤構築に貢献できる看護実践者・看護教育者・看護管理者の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
看護管理	看護管理の中核的役割を担う人材を育成するために、医療・看護提供システムや看護政策、組織マネジメントに関する諸理論、方法論を探究します。また、マネジメント上の課題を多角的に分析することで、課題解決に向けた方策を探究します。	田村 やよひ 学長
看護教育	看護基礎教育・看護継続教育を担う人材を育成するために、看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論を探究します。また、これらの知見をもとに教育・学習活動の実践例を考察し、課題解決に向けた方策を探究します。	本田 多美枝 教授 阿部 オリエ 准教授
看護倫理	さまざまな看護の場で、個人々の立場・背景による価値の違いによって倫理的問題(ジレンマ、課題等)が生じています。自らの感受性を高めながら、諸理論や分析方法を通して問題の本質と解決策を探究していきます。	柳井 圭子 教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

本田 多美枝 教授 <i>t-honda@jrckicn.ac.jp</i> ・看護職の人材開発に関する研究(看護学生、新人からベテランまでの各期の特性に応じた生涯学習支援、教育方法の開発など) ・リフレクション、ナラティブアプローチなどを活用した看護職の実践力開発・熟達化に関する研究 ・看護・看護教育の現象解明・概念化に向けた研究	柳井 圭子 教授 <i>k-yanai@jrckicn.ac.jp</i> ・看護に関する法政策研究(医療安全・医療過誤訴訟を含む) ・看護の倫理的問題に関する研究(生・性、臨床倫理等から死に関する問題まで) ・暴力や虐待事件に関係する対象者看護(法看護学)教育導入に関する研究
--	--

CNSコース クリティカルケア看護領域

本大学院は、「クリティカルケア看護」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程(専門看護師教育課程 38単位)として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。



領域	領域の特徴	担当教員
クリティカルケア看護	本領域は、クリティカルケア看護専門看護師の育成をめざします。クリティカルケア看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもってクリティカルケア看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。	山勢 善江 教授 濱元 淳子 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

山勢 善江 教授
y-yamase@jrckicn.ac.jp
・クリティカルケア領域における患者・家族への看護に関する研究

CNSコース 在宅看護領域

本大学院は、「在宅看護」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程(専門看護師教育課程 38単位)として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。



領域	領域の特徴	担当教員
在宅看護	本領域は、在宅看護専門看護師の育成をめざします。在宅看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって在宅看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。	小林 裕美 教授 乗越 千枝 教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

小林 裕美 教授
h-kobayashi@jrckicn.ac.jp
・在宅で終末期を迎える療養者と家族に関する研究
・看護現象を質的統合法(KJ法)を用いて明らかにする研究
・訪問看護師の資質向上に関する研究

乗越 千枝 教授
c-norikoshi@jrckicn.ac.jp
・継続看護・退院支援に関する研究
・認知症の人および家族に関する研究
・訪問看護技術に関する研究

助産教育コース 助産教育領域

社会的要請に対応できる助産師としての専門的基礎的能力に加え、幅広い視野と科学的洞察力を持った、新たな助産のあり方を探究できる人材の育成を目指します。また、専門的知識の習得とともに母子保健分野における課題探究能力を備えた専門職および研究者を育成します。さらに国内外を問わず、女性および母子の健康問題に対して多角的な視点で考えることのできる資質を涵養します。



領域	領域の特徴	担当教員
助産教育	人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助を探究します。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期における根拠に基づく助産ケアを学びます。さらに、助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携を目指します。必要な科目を履修し、単位を修得することで、助産師国家試験受験資格が得られます。	永松 美雪 教授 吉永 宗義 教授 石山 さゆり 准教授 後藤 智子 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

永松 美雪 教授
m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp
・親子関係、育児支援に関する研究
・男女間暴力・性暴力被害の予防教育と支援に関する研究
・望まない妊娠・性感染症の予防教育と支援に関する研究

石山 さゆり 准教授
s-ishiyama@jrckicn.ac.jp
・看護におけるカオス・複雑系に関する研究/胎児の非線形相互作用
・周産期のアタッチメントに関する研究
・胎児・新生児・乳幼児の発達と親準備教育に関する研究

後藤 智子 准教授
t-goto@jrckicn.ac.jp
・ウィメンズヘルス/女性の健康課題に関する研究
・母性看護実習・助産実習における学習支援に関する研究
・母性看護技術に関する研究

研究指導体制

研究指導は、1名の研究指導教員と1名以上の研究指導補助教員の計2名以上で行います。研究指導教員と研究指導補助教員は、修士論文の作成に至るまで一貫した研究指導を行います。

本大学院での研究指導においては、総合研究指導体制を採用しています。これは、大学院生の研究指導において専門分野の主たる指導教員に加えて、領域を横断して研究指導を受けることができる体制をいいます。これにより、大学院生は、専門領域の研究をすすめるながら、領域を超えた視点や論点から、自分の研究を検討し、さらなる進展を図ることが可能になります。

リベラルアーツ・専門基礎教員/研究テーマ

鈴木 清史 教授
・看護と保健医療をめぐる文化人類学的研究

因 京子 教授
・看護臨床コミュニケーションの研究(患者の特性別、異業種間、媒体別など)

力武 由美 准教授
・暴力・健康・母性に関する国際比較ジェンダー研究



区分	授業科目	単位数	時間数	履修方法及び修了要件①	履修方法及び修了要件②				履修年次及び単位数					
					保健・看護コース		CNSコース		助産教育コース		1年次		2年次	
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	①	②	③	④
専門科目	保健コース 国際保健 ○災害・国際協力 ○ヘルスプロモーション	国際保健特論Ⅰ ※	2	30	●	○				2				
		国際保健特論Ⅱ	2	30	●					2				
		演習(国際保健)	4	120	●					4				
		特別研究(国際保健)	4	120	●							4		
	看護コース 生涯発達看護 ○成育看護 ○成人看護(慢性) ○老年看護	生涯発達看護特論Ⅰ ※	2	30	●	○				2				
		生涯発達看護特論Ⅱ	2	30	●					2				
		演習(生涯発達看護)	4	120	●					4				
		特別研究(生涯発達看護)	4	120	●							4		
	看護コース 広域看護 ○クリティカルケア ○メンタルヘルスケア ○在宅ケア	広域看護特論Ⅰ ※	2	30	●	○				2				
		広域看護特論Ⅱ	2	30	●					2				
		演習(広域看護)	4	120	●					4				
		特別研究(広域看護)	4	120	●							4		
	看護コース 基盤看護 ○看護管理 ○看護教育 ○看護倫理	基盤看護特論Ⅰ ※	2	30	●	○				2				
		基盤看護特論Ⅱ	2	30	●					2				
		演習(基盤看護)	4	120	●					4				
		特別研究(基盤看護)	4	120	●							4		
	CNSコース	クリティカルケア看護	クリティカルケア看護特論Ⅰ	2	30			●			2			
			クリティカルケア看護特論Ⅱ	2	30			●			2			
			クリティカルケア看護特論Ⅲ	2	30			●			2			
			クリティカルケア看護演習Ⅰ	2	60			●			2			
			クリティカルケア看護演習Ⅱ	2	60			●			2			
			クリティカルケア看護演習Ⅲ	2	60			●			2			
			クリティカルケア看護演習Ⅳ	2	60			●			2			
			クリティカルケア看護実習Ⅰ	5	225			●					5	
クリティカルケア看護実習Ⅱ		5	225			●					5			
在宅看護		在宅看護学特論Ⅰ	2	30			●			2				
		在宅看護学特論Ⅱ	2	30			●			2				
		在宅看護学特論Ⅲ	2	30			●			2				
		在宅看護学特論Ⅳ	2	30			●			2				
		在宅看護学特論Ⅴ	2	30			●			2				
	在宅看護学演習Ⅰ	2	60			●			2					
助産教育コース	助産学総論	1	30			●			1					
	ウィメンズヘルスⅠ	1	15			●			1					
	ウィメンズヘルスⅡ	2	30			●			2		2			
	リプロダクティブ・ヘルス	2	30			●			2					
	女性のフィジカルアセスメント	1	15			●			1					
	妊娠期のアセスメントとケア	2	30			●			2					
	分娩期のアセスメントとケア	2	30			●			2					
	産褥期・新生児のアセスメントとケア	2	30			●			2					
周産期学(正常編)	1	15			●			1						
周産期学(異常編)	1	15			●			1						
新生児学	2	30			●			2						
助産と薬理	1	15			●			1						
地域母子保健	1	15			●			1						
助産経営管理学	2	30			●			2						
フィールドワーク演習	2	30			●			2						
助産基礎実習	8	360			●			8						
助産所実習	2	90			●			1		1				
新生児集中ケア基礎実習	1	45			●					1				
共通科目	保健・看護総合特論	1	15			●			1					
	看護理論	2	30			●			2					
	看護倫理	1	15			●			1					
	グローバルヘルス	1	15			●			1					
	専門外国語講義Ⅰ	1	15			●			1					
	研究方法(研究方法総論)	2	30			●			2					
	研究方法A-I(量的研究方法の基礎)	1	15			○				1				
	研究方法B-I(質的研究方法の基礎)	1	15			○				1				
	研究方法A-II(量的研究方法)	1	15			○				1				
	研究方法B-II(質的研究方法)	1	15			○				1				
	看護教育論	2	30			○				2				
	看護管理論	2	30			○				2				
	看護政策論	1	15			○				1				
	専門外国語講義Ⅱ	2	30			○				2				
	フィジカルアセスメント特論	2	30			○	●			2		2		
	病態生理学特論	2	30			○	●			2				
	臨床薬理	2	30			○	●			2				
	コンサルテーションⅠ	1	15			○				1				
コンサルテーションⅡ	1	15			○				1					
専門実習Ⅰ	2	90			○				2					
専門実習Ⅱ	2	90			○				2		2			
文献クリティーク演習	2	60			○				2					
課題研究	2	60			○				2		2			
計														

※保健コース・看護コースにおいて、各領域の特論Ⅰは、当該領域の大学院生がいない場合は、開講しません。

修士論文タイトル

修士論文タイトル一覧

平成28(2016)年度

- 中期中絶ケアに複数回携わった助産師の体験と変化
- 超低出生体重児を出産した母親が児のNICU入院中に看護職者に求める支援
- HTLV-1キャリアの母親が児への栄養方法を選択し行った体験
- 母乳栄養から人工栄養に変更した母親の体験
- 救急医療の終末期ケアにおける救急看護認定看護師の実践で生じるジレンマへの対処
- 中堅看護師のキャリア開発に対する看護師長の認識と支援
- スーパー救急病棟の新人看護師が緊迫と感じた体験とその意味づけ
- 学生の主体的な学習を支援する上での新任助手の戸惑いと対処のプロセス-看護系大学の新任助手に焦点をあてて-
- 30代及び40代の男性労働者におけるストレス反応と余暇活動の関連
- 中堅看護師が抱いたキャリア停滞感から抜け出した体験

平成27(2015)年度

- 福島第一原子力発電所事故の被災者でもある看護職者が経験した心理的危機対応のプロセス
- 中堅看護師が日々の看護実践を継続的に語ることに意味 -語った後の変化に焦点を当てて-
- 避難所における乳児を持つ母親に生じた問題と必要な支援 -東日本大震災に関する文献研究-
- 歯科保健に関する知識及び行動と行動変容ステージとの関連 -産後の母親への調査から-
- 低出生体重児を出産した母親がNICU入院中の児を受け入れていく過程
- 病院勤務助産師の学校で性教育を実施した体験

平成26(2014)年度

- 院内助産システムを運営する看護管理者が捉えたマネジメント上の課題と解決に向けた取り組み -開設準備期・開設当初・開設から現在の各期に着目して-
- 超高齢者の終末期医療における家族の意思決定に対する看護師の臨床判断
- 助産学実習において学生が捉えた臨床指導者の関わりと学生が抱いた思い・学び
- 救急看護師のせん妄発症予防におけるリスクの焦点観察と予防ケア実践の関連

平成25(2013)年度

- 10代妊婦が妊娠継続するプロセス
- 30~40才代のフィットネスクラブ会員における運動継続の要因
- 女子看護大学生が描くキャリア像の変化とキャリア像に影響した事柄 -職業生活と私生活の両立の視点から-
- 開業助産師が行う乳房マッサージに対する授乳期の母親の意味づけ

研究論文発表会

修士論文発表会

平成29年3月3日(金)

平成28年度

修士論文発表会を開催しました。



修士論文を提出した10名の大学院生が研究の成果を発表し、集まった院生および教員は、熱心に耳を傾けていました。院生は、助産師国家試験受験資格取得や仕事との両立というそれぞれの使命を全うしながら、標準課程あるいは長期履修課程という時間的制約のなかで研究に取り組んできました。その成果は社会的にも学術的にも貢献し得る価値あるものとなっていました。

質疑応答では、他領域の教員からも、研究内容を問う質問だけでなく、今後の学会発表や投稿等の公表に向けたアドバイスもあり、有意義な発表会となりました。

春季研究計画発表会

平成29年3月10日(金)

平成28年度

春季研究計画発表会を開催しました。



12月に開催された研究計画相談会では、さまざまな領域の先生方からのアドバイスを受け、さらに演習で討議を重ねる春季研究発表会において研究計画を発表しました。今回の発表においても、多くの先生方から質問やご意見、助言を受けることで、研究計画や進捗状況を見直すための糸口となる新たな視点などを発見することができました。課題研究では社会的貢献をなすこと、特別研究では学術的意義・社会的意義を持つことが求められていますが、修士論文を作成していくうえで、研究計画書は要となりますので、さらに検討を重ねていきたいと考えております。(院生コメント一部抜粋)

博士課程 共同看護学専攻

設置の趣旨

学校法人日本赤十字学園が運営する日本赤十字北海道看護大学、日本赤十字秋田看護大学、日本赤十字豊田看護大学、日本赤十字広島看護大学、日本赤十字九州国際看護大学の5大学は、それぞれに「共同看護学専攻」を設置しました。この5専攻は共同して一つの教育課程を編成し、博士課程の教育・研究を実施します。

「共同看護学専攻」では、これまでに5大学が蓄積してきた教育・研究資源を一体的、有機的に機能させることにより、5大学の教育・研究を融合し、シナジー効果を発揮させ、看護学の「知の共同体」としての多様化、多層化した「共同教育課程」という新たな教育研究環境を学生に提供します。学生は、専用回線で結ばれた遠隔教育システムを用いて、5大学の様々な経験

をもつ多くの教員の多様な考えや発想に触れる機会が与えられ、学生個々のニーズや能力等に応じた専門領域の垣根を越えた「オーダーメイド」な教育・研究指導を受ける機会が保証されます。

「共同看護学専攻」は、看護の諸現象に関する研究成果の発展的活用に向けた教育・研究活動の一層の拡充を図り、「知の共同体」で得られた高度な実践知を基盤として、あらゆる看護現象に対してアプローチし、理論や実践方法の創造ができる教育・研究者、自立した研究と研究指導ができる研究者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる実践者の養成を目指します。

3年間の教育・研究スケジュール

前期	1年次	2年次	3年次	後期	1年次	2年次	3年次
4月	入学式 ガイダンス 主研究指導教員決定	ガイダンス 前期授業開始	ガイダンス 前期授業開始	10月	後期授業開始 合同研究ゼミナール 副研究指導教員決定	後期授業開始	後期授業開始
5月	合同ガイダンス 前期授業開始		博士論文・審査願 提出① (4年目以降の院生)	11月			博士論文・審査願 提出②
6月		研究計画書 提出①	博士論文 提出① (4年目以降の院生)	12月			博士論文 提出②
7月	前期授業終了	前期授業終了	前期授業終了	1月	後期授業終了	後期授業終了	後期授業終了
8月				2月		研究計画書 提出③	
9月		研究計画書 提出②		3月			博士論文発表会 学位記授与式

※長期履修制度あり

特色

- 学位は、共同教育課程を構成する5大学の連名により、授与されます。
- 学生は、主指導教員が在籍する大学に学籍を置くことになります。
- 学生は、5大学の施設等を利用することができます。
- 学生は、学籍を置く大学以外の大学の副指導教員からも、研究指導が受けられます。
- メディアを利用した遠隔授業により、各大学で開講する講義を、学籍を置く大学から受講することができます。

共同看護学専攻(博士課程)の教育理念等

理念

赤十字の理念である「人道(Humanity)」の実現

共同看護学専攻の理念は、赤十字の理念である「人道(humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することである。さらに、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材を育成できるような教育を行うことを目指す。

教育目標

- 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

求める人材

- 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- 常に探究心をもち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- さまざまな分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- 真摯に学び、高い論理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

養成する人材

- 質の高い看護学の教育および研究指導ができ、それぞれの地域で活躍する人材
- 自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力および基礎となる豊かな学識を備え、看護学分野の研究をリードでき、それぞれの地域の看護研究・看護教育のリーダーとなる人材
- 医療施設等の臨床において看護の質を管理し、継続教育を実践でき、それぞれの地域の看護実践・看護教育のリーダーとなる人材
- 看護実践に対する理論の構築、看護方法論の開発・創造ができ、看護実践のリーダーとなる人材
- 国内外の保健・医療・福祉の分野で創造的な活動ができ、それぞれの地域で保健・医療・福祉分野のリーダーとなる人材
- 未知なる健康課題の発生に対して迅速・的確に対応し、その成果を社会に還元できる人材
- 国内外における災害救護・災害看護を実践するための有用な理論構築ができ、国内外で人道的任務を果たせる人材

学位

博士(看護学)

出願を希望する方は、出願前に研究指導を希望する教員と面談し、入学後の研究・学修活動について相談を行う必要があります。まず、事前面接の予約を行う必要がありますので、研究指導を希望する教員までご連絡ください。

教員紹介

本田多美枝教授

0940-35-7037
t-honda@jrckicn.ac.jp



キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行います。

姫野稔子教授

0940-35-7026
t-himeno@jrckicn.ac.jp



老年期にある対象者の倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行います。

小林裕美教授

0940-35-7501
h-kobayashi@jrckicn.ac.jp



地域で療養する終末期の人を看取る家族に対する看護支援モデルや教育支援モデルの開発に関する研究指導を行います。

高橋清美教授

0940-35-7502
k-takahashi@jrckicn.ac.jp



精神科領域における口腔ケアシステムに関する研究、地域におけるうつ病教育に関する研究指導を行います。

大学院でのサポート体制

教育方法

本共同看護学専攻では、対面での集団教育および個人指導の教育方法に加えて、日本赤十字学園専用のひかり回線で結ぶ遠隔教育システムを活用した特徴的な教育方法を用います。同システムの品質の高い映像・音声によって、通常の対面授業とほぼ同様なリアルタイムの双方向授業が5大学間で可能となります。学生の皆さんに、5大学の強みを活かした教育の場を設定するとともに、移動にかかる身体的・経済的な負担を軽減できるように努めています。

また、社会人学生の受け入れに関しては、長期履修制度を設けたり、夜間開講などの時間割の配慮を行います。

遠隔授業のイメージ

日本赤十字学園専用の遠隔教育システム（ハイビジョン画像・高音質・双方向・リアルタイム）で、5大学の担当教員から同時に多様な教育・研究指導を受けられます。例えば、九州に在籍していても、遠隔授業で北海道の講義を受けることができます。もちろん、直接、北海道で受講することも可能です。



長期履修制度

職業を有しているなどの事情で標準の修業年限（3年）では修了することが困難となる者を対象に、長期（4年）にわたり計画的に教育課程の履修を認める制度です。その場合は、授業料等の支払い方法が変更になります。詳細は大学院学生募集要項をご参照ください。

教育方法の特例

共同看護学専攻では、実務経験を有する有識者などの社会人を受け入れる場合の教育上の配慮として、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)による教育を実施しています。適用が認められた場合には、以下の①～③の履修指導及び研究指導の方法を実施することができます。適用を希望する者は、事前面接の際に、研究指導を希望する教員に申し出てください。

- ① 授業は、基本的に夜間及び土曜日に開講します。長期休業期間などに開講し、単位修得のための便宜を図ります。
- ② 研究指導及び論文作成指導も上記と同様に便宜を図ります。必要に応じ、多様なメディアを利用して指導します。
- ③ 授業科目、履修方法、履修指導、研究指導、修了要件等は、一般学生と同様です。履修計画の指導にあたり、講義・演習・研究指導等については、必要な場合、集中的に開講します。

教育課程等の概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	
共通科目	看護理論	1・2後	日本赤十字豊田看護大学	1	○					
	赤十字人道援助論	1・2後	日本赤十字秋田看護大学	1	○					
	科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1	○					
	科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字豊田看護大学	1	○					
	科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	1	○					
	科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)	1・2後	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字北海道看護大学	1	○					
	科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)	1・2前	日本赤十字九州国際看護大学	1	○					
	科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学	1	○					
	臨床倫理論	1・2後	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字北海道看護大学	1	○					
小計(9科目)	—	—	0	9	0	—	—	—		
専門科目	看護人材開発特論	1・2前	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2	○					
	実践看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学	2	○					
	療養生活看護学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	2	○					
	生涯発達看護学特論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字秋田看護大学	2	○					
	広域連携看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2	○					
	災害救護特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2	○					
	健康科学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	2	○					
小計(7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—		
演習	看護学演習	1通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2			○			
	小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	
合同研究ゼミナール	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1			○			
	小計(1科目)	—	—	1	0	0	—	—	—	
特別研究	特別研究	2～3通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	8			○			
	小計(1科目)	—	—	8	0	0	—	—	—	
合計(19科目)				—	—	—	11	23	0	—

標準課程修了までの履修の流れ

- 1年次**
- 共通科目※2科目2単位以上(選択)
看護理論
赤十字人道援助論
臨床倫理論
科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)
科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)
科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)
科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)
科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)
科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)
 - 専門科目※1科目2単位以上(選択)
看護人材開発特論
実践看護学特論
療養生活看護学特論
生涯発達看護学特論
広域連携看護学特論
災害救護特論
健康科学特論
 - 演習※必修2単位
看護学演習
 - 合同研究ゼミナール※必修1単位

- 2・3年次**
- 特別研究※必修8単位
 - 研究計画書審査
 - 研究倫理審査
 - 学位論文審査

博士学位論文の研究発表会

修了要件
標準修業年限(3年)以上在学し、次の所定単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ博士学位論文を提出し、博士学位論文審査と最終試験に合格しなければならない。

- 以下の①から⑤を満たし15単位以上
- ① 共通科目のいずれか2科目2単位以上
 - ② 専門科目から1科目2単位以上
 - ③ 「看護学演習」を2単位
 - ④ 「合同研究ゼミナール」を1単位
 - ⑤ 「特別研究」を8単位

大学院で学ぶこと ～修士生のコメント～

学び発信する楽しさ



江藤 沙月
2017 修了
看護コース 生涯発達看護(助産)

大学院に進学した当初、自発的に自分の考えを発言していく授業スタイルに慣れず、戸惑いと焦りばかり感じていました。しかし、年齢や経験の異なる他の院生とのディスカッションを通して様々な考えや価値観に触れ、自己の学びを深めていくと共に積極的に周囲に自己の考えを発信していく喜びを味わうことができました。課題研究では、方向性が定まらずやめたいと何度も考えた

仕事と大学院生活の両立から得られた財産



染谷 公美
2017 修了
保健コース ヘルスプロモーション

産業保健師として仕事をする傍ら大学院生活を送った3年間、今振り返ると確かに大変ではありましたが、非常に充実したものでした。修了を迎えた今、統計学やプレゼンテーションの技法はもちろん、国際的な視野を持った思考、学問を追求する楽しさ、学友や先生方との絆を深められたことは、入学当初では考えられなかった私のかけがえのない財産です。

自己の学びを深める



大釜 瑛美
2017 修了
看護コース 生涯発達看護(助産)

私は本学を卒業後、慣れ親しんだ環境で学びたいと思い本大学院に進学しました。大学院での授業では、領域の異なる学生や先生方とのディスカッションを通して、様々な考えに触れることで自己の学びを深めることができました。

研究と助産実習、助産師国家試験の勉強の同時進行は大変でしたが、院生や先生方の支えがあり乗り越えることができました。

多角的視点を持つ



隈井 寛子
2017 修了
看護コース 基盤看護(看護教育)

大学院に進学したのは、臨床で抱いた中堅看護師のキャリアに関する疑問を明らかにしてみたいと思ったことがきっかけでした。疑問を、学術的意義を持った研究テーマにしていく過程は大変なものでした。しかし、その過程では、年齢や経験、領域の異なる院生や教員と多くの意見を交わし、少しずつ、多角的視点を持つことができるようになってきたと感じています。

少しずつ、着実に



内 香菜子
2017 修了
看護コース 基盤看護(看護教育)

私の修士課程での2年間は、何かに没頭できることのありがたみや学ぶことの楽しさを実感する反面、行き詰まることも多く、決して単調な毎日ではありませんでした。大学院進学のおかげにもなった、課題や疑問に対する思考の整理の仕方や、それを他者に伝える術が身についたという手ごたえは、修了式を終えた今、まだはっきりとは実感できていません。しかし、これからの

事もありませんが、先生方の熱心なご指導のもと最後まで諦めずにやり遂げる事ができ、自己の探究心を養うことができたと思います。

助産領域では、命とは何か、実習や座学を通して改めて考える事ができました。これからは新しい環境のもとで、妊婦さんやその家族と真摯に向き合い、支えることのできる助産師になれるように頑張りたいと思います。

保健医療の現場において、私たち医療従事者はひとりの対象者に対し、いくつもの選択肢の中でその人にとって何が最適なのかを考えることが常に求められます。大学院はその思考のプロセスを鍛えられる場所でもあり、人間としても非常に成長できる場所だと思えます。皆さんも、是非、大学院の素晴らしさを味わってみてほしいなと願っています。

今後は大学院での学びを生かして、知識や技術だけでなくエビデンスに基づいた助産ケアを行ってまいります。また、ハイリスク妊娠の妊娠分娩管理を行う中で、母親の不安や悩みに寄り添い、妊産婦の心の支えになりたいと考えています。

現在は、看護教員として勤務しています。大学院での学びを活かし、看護学生が、前進する力としなやかさを培って、看護師としてのキャリアをスタートできるように育成をしたいと考えています。そして、看護の教育、キャリアについて更に追究していきたいと考えています。

人生において、この修士課程での経験が、思考や伝え方に活かされていくと信じています。なぜなら、本大学院で課題や研究に取り組む中で、先生方や学友と共に、問いに対する答えを導き出していくプロセスを確かに辿っていたのだと、今振り返って思えるからです。少しずつ、着実に学べる環境が本大学院にはあります。

大学院で学ぶこと ～在校生のコメント～

「丁寧な指導が、
得られます。」

高瀬 理恵子
看護コース
広域看護(メンタルヘルスケア)



長期履修制度を利用して社会人院生となり2年が経ちました。働きながら育児をしながら学が大変さは一言では言い表せません。ですが、もし2年前の自分に返ることができても私は確実に本大学院への進学を選択します。それだけ本大学院での学びは他で得られないものだからです。

本大学院では、研究計画書作成に多くの時間が割かれ、丁寧な指導が受けられます。このため、目の前の課題を達成するだけでなく、将来研究を行い続けていくための方法論を身に付けることができます。研究活動の過程では、新たな人間関係やネットワークが築かれ、さらに研究者として自律していくことが要求されます。私自身もこれらの力が養われていくことを実感し、毎日が充実しています。

私は、本学看護学科を卒業と同時に、同大学院修士課程生涯発達看護領域に入学しました。私は助産師を目指す道として、専門学校、他大学の専攻科への進学など様々な道を考えていました。今後、助産師として働くうえでエビデンスのあるケアを学ぶことの必要性や、助産師になり、より活躍の場を広げるためにも研究方法を学び、知識や根拠を持って解決していくための思考を身につけたいと思い、本学の大学院に進学を決めました。

大学院の授業では、助産分野だけではなく、10名の様々な領域の院生とのディスカッションを含めた講義があり、自己の考えを述べる機会が多く与えられています。最初は戸惑うことも多くありましたが、このような機会を大切に、自ら考える力を養い伝える力を身につけていきたいと思っています。今後も、様々な領域の院生たちとディスカッションを行うことや、日々のやりとりの中で多くの刺激を受けながら自己の成長に繋げていきたいと思っています。

「自己の
成長のために。」

田邊 沙季
看護コース
生涯発達看護(助産)



INFO 01 科目等履修生



本学の学生以外の方(本学卒業生を含む)が、本学(大学院)が開講している授業科目(一部の科目を除く)を当該年度に限り履修する制度です。履修した授業科目の試験に合格すると、10単位を上限に、単位が与えられます。科目等履修生になるためには所定の選考を経て、入学が許可されます。
※詳細はHPにてご確認ください。

INFO 02 お試し受講



本学の学生以外の方(本学卒業生を含む)が、本学(大学院)が開講している授業科目(一部の科目を除く)を体験受講する制度です。希望する専攻領域の講義をお試し受講してみませんか?
※入試広報課までお問い合わせいただくか、HPにてご確認ください。

INFO 03 入試相談会

2017年度 実施日

第1回 7/30 [SUN]

第2回 9/24 [SUN]



オープンキャンパスでは、入試相談会を実施します。本学大学院に関する質問に対し、個別で相談に応じます。

オープンキャンパスに限らず、随時大学院入試等に関する相談を受け付けています。
問い合わせ先：0940-35-7008(入試広報課)



授業風景



ラーニング・コモンズ

ラーニング・コモンズとは、共同で学習するための新しい空間です。実習のまとめやプレゼンテーションの練習など、様々な形に応じたグループでのアクティブ・ラーニングができます。仲間と話し合いながら学ぶことで、新しいアイデアが浮かんだり、みんなの学び姿勢に刺激を受けたり、そこで話したことをきっかけに新しい人間関係が生まれるなど出会いの場でもあります。



研究風景



施設紹介

図書館

専門知識の修得や最新情報の入手をサポートする図書館。大学正面のゲート棟に位置し、約6万2千冊が所蔵可能な、明るく機能的なスペースです。医療・看護系の図書は約6割を占め、専門の知識を深く探求することができます。赤十字に関連した図書および報告書を備えた赤十字コーナーや、災害看護・人道科学関連の図書を備えた特別コレクションコーナーのほか、看護の周辺分野である社会科学や心理学等の図書も充実しています。新着図書コーナーでは、新しく受け入れた図書や学内行事に関連した図書を展示しています。館内には41台のパソコンを備えており、すべてインターネットに接続しています。視聴覚機器も備え、機能面での充実を図っています。



院生研究室



CALL教室



オーヴァルホール



実習室



アスティショップ



レストランアスティ

入試情報

看護学専攻(修士課程)

入学者募集詳細

募集定員 **10名**

取得学位 **修士(看護学)**または**修士(保健学)**

修業年数 **2年**(長期履修課程の場合は3年)

募集専攻領域

コース「学位」	専攻領域(分野)
①保健コース「修士(保健学)」	国際保健(災害・国際協力、ヘルスプロモーション)
②看護コース「修士(看護学)」	生涯発達看護(成育看護、成人看護(慢性)、老年看護)
	広域看護(クリティカルケア、メンタルヘルスケア、在宅ケア)
	基盤看護(看護管理、看護教育、看護倫理)
③CNSコース「修士(看護学)」	クリティカルケア看護、在宅看護
④助産教育コース「修士(看護学)」	助産教育

入学試験概要

試験区分	前期	後期
出願期間	平成29年8月1日(火)～8月10日(木)※当日消印有効	平成29年12月21日(木)～平成30年1月5日(金)※当日消印有効
試験日	平成29年9月9日(土)	平成30年1月27日(土)
試験場所	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アステイ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して行います。	
出願資格	※各入試(一般入試・社会人入試・社会人推薦入試)方法により異なります。詳細は大学院募集要項をご参照ください。	
合格発表	平成29年9月15日(金)	平成30年2月2日(金)
入学金振込期間	平成29年9月15日(金)～9月29日(金)15時まで	平成30年2月2日(金)～2月16日(金)15時まで
入学手続締切日	平成30年3月9日(金)15時まで(当日消印有効)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額					摘要
	標準過程		長期履修過程			
	1年目	2年目	1年目	2年目	3年目	
入学金	300,000円		300,000円			入学金の免除制度あり※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	400,000円	400,000円	年額 前期4月中 後期10月中 ※1年目前期は3月中
維持運営費	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中 ※1年目前期は3月中
実験実習費(助産教育・CNS)	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中 ※1年目前期は3月中

※入学金免除制度の詳細は、大学院募集要項をご参照ください。

共同看護学専攻(博士課程)

入学者募集詳細

募集定員 **2名**

取得学位 **博士(看護学)**

修業年数 **3年**(長期履修課程の場合は4年)



入学試験概要

試験区分	第1回	第2回
出願期間	平成29年8月1日(火)～8月10日(木)※当日消印有効	平成29年12月21日(木)～平成30年1月5日(金)※当日消印有効
試験日	平成29年9月9日(土)	平成30年1月27日(土)
試験場所	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アステイ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して行います。	
出願資格	※修士の学位を有していなくても出願資格の審査を受け認定されれば受験できます。詳細は大学院募集要項をご参照ください。	
合格発表	平成29年9月15日(金)	平成30年2月2日(金)
入学金振込期間	平成29年9月15日(金)～9月29日(金)15時まで	平成30年2月2日(金)～2月16日(金)15時まで
入学手続締切日	平成30年3月9日(金)15時まで(当日消印有効)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額							摘要
	標準過程			長期履修過程				
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	4年目	
入学金	400,000円			400,000円				入学申込手続時※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	300,000円	300,000円	300,000円	180,000円	240,000円	240,000円	240,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※日本赤十字学園の赤十字6看護大学卒業生・修士生は入学金が免除されます。

奨学金(修士課程・博士課程)

奨学金は、人物・学業ともに優秀な学生が、経済的理由により就学が困難と認められる場合に、学資として貸与または給付される制度です。本学で現在取り扱っている奨学金は次のとおりです。

① 日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金 **1名上限100万円**※

② 一般財団法人 日本赤十字社看護師同方会奨学金 **総額100万円**

③ 日本赤十字社山口県支部奨学金 **年間60万円**

※日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金は、3名以内。希望者複数の場合、貸与額調整。

④ 総合病院山口赤十字病院奨学金 **年間60万円**

⑤ 武蔵野赤十字病院 **年間60万円**

⑥ 独立行政法人 日本学生支援機構奨学金 **第一種・第二種**

⑦ 国際看護師協会東京大会記念奨学金 **年間180万円以内**

⑧ 高橋美智大学院教育(看護管理)奨学金 **総額60万円**※給付

⑨ 小倉一春記念国際看護奨学金 **年間72万円**※給付

○応募には、いろいろな応募資格や条件があります。詳細については学務課に確認してください。